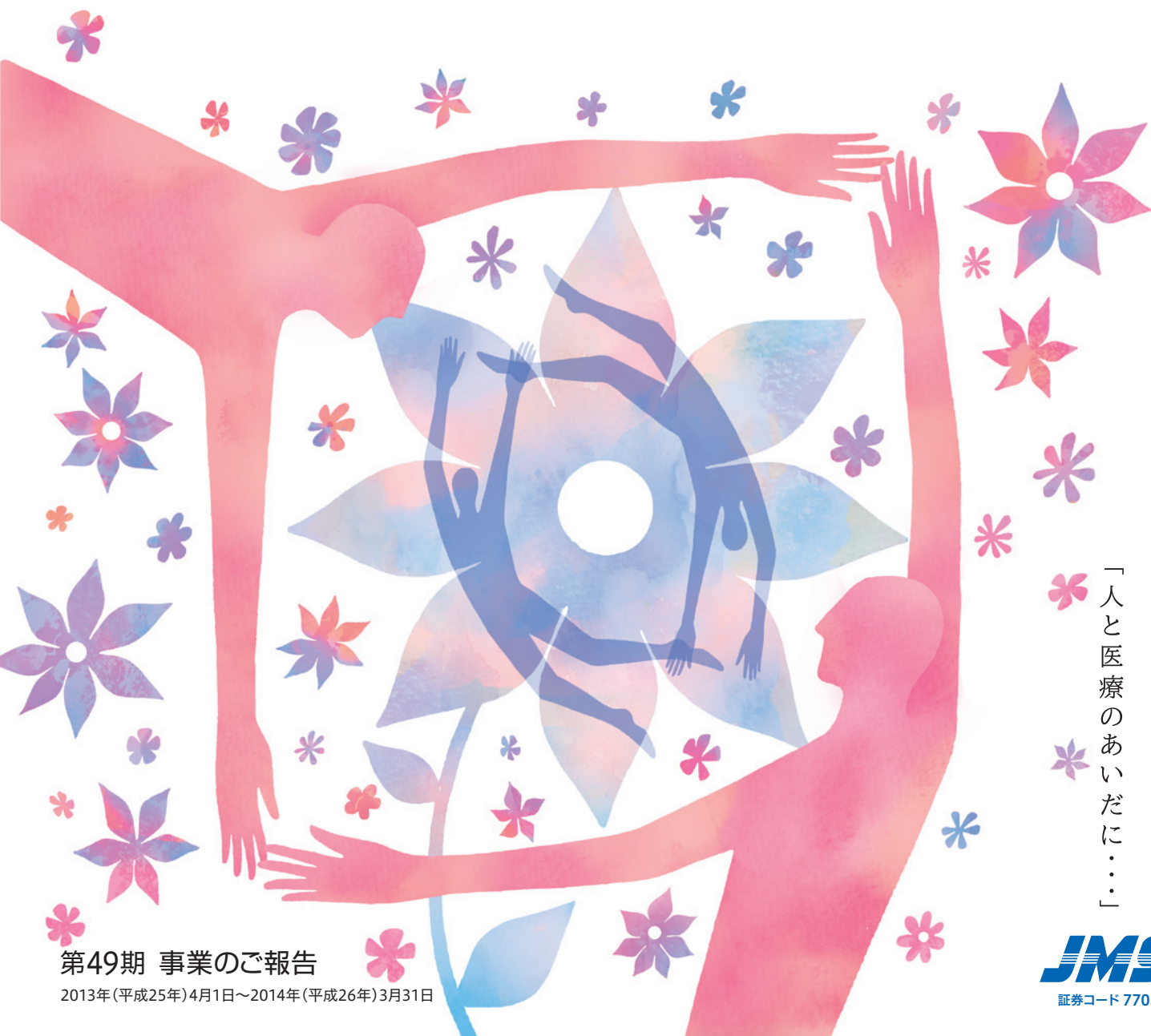


JMS NOTES



「人と医療のあいだに・・・」

第49期 事業のご報告

2013年(平成25年)4月1日～2014年(平成26年)3月31日

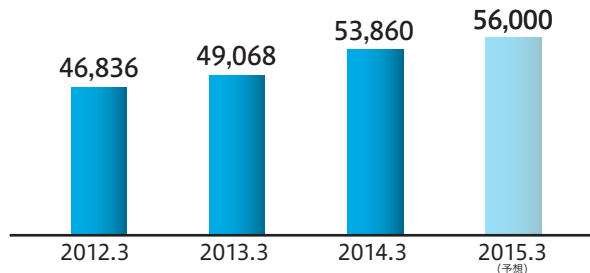
連結財務ハイライト

売上高

538億60百万円

(百万円)

■ 通期 ■ 予想



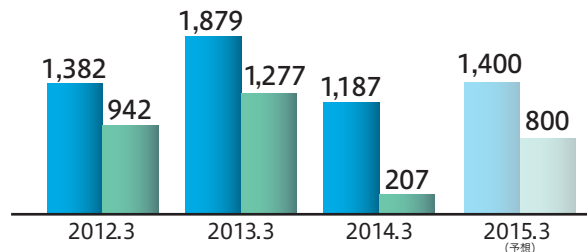
経常利益 当期純利益

11億87百万円

2億7百万円

(百万円)

■ 経常利益 ■ 当期純利益
■ 通期 ■ 予想

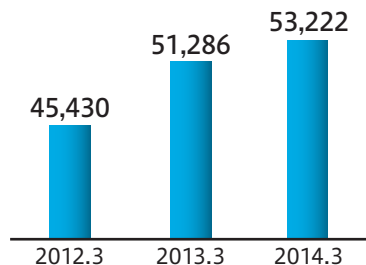


総資産

532億22百万円

(百万円)

■ 通期

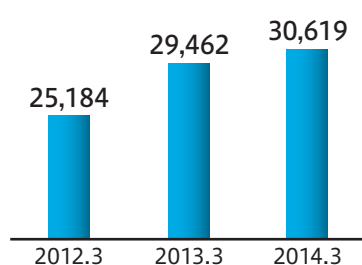


純資産

306億19百万円

(百万円)

■ 通期

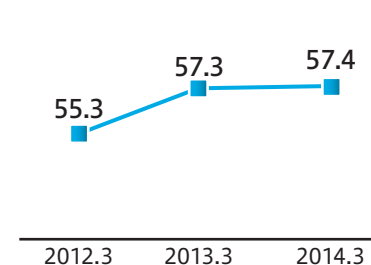


自己資本比率

57.4%

(%)

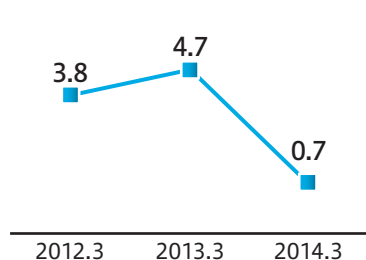
■ 通期



自己資本当期純利益率(ROE) 0.7%

(%)

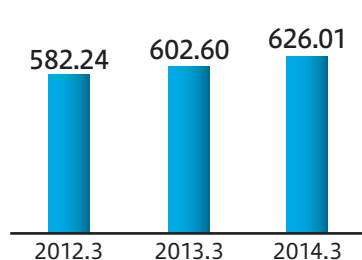
■ 通期



1株当たり純資産 626円01銭

(円)

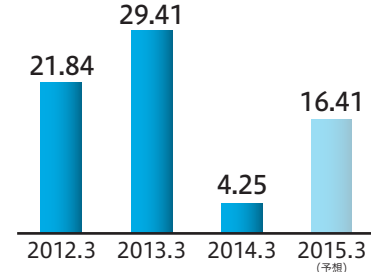
■ 通期



1株当たり当期純利益 4円25銭

(円)

■ 通期 ■ 予想



【見通しに関する注意事項】 上記予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご承知おきください。



代表取締役社長
奥窪 宏章

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに、当社第49期(2013年4月1日から2014年3月31日まで)のJMS NOTESをお届けいたしますので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

当社グループの業績につきましては、国内においては、経腸栄養関連製品や医療用手袋の販売が引き続き伸長したほか、新たな機能を付加した血液透析装置の販売が増加しました。海外においては、成分献血用回路の販売が好調に推移しました。

この結果、連結売上高は、円安による為替換算の影響も加わり538億60百万円(前連結会計年度比9.8%増)となりました。

利益につきましては、増産対応のための自動化設備の増設等に伴う償却負担に加え、運送費や支払手数料等の販売費の増加により、営業利益は9億円(前連結会計年度比43.5%減)となりました。また、持分法による投資利益や為替差益を計上したことにより、経常利益は11億87百万円(前連結会計年度比36.8%減)となり、税効果会計による繰

延税金資産の取崩しにより税金費用が増加し、当期純利益は2億7百万円(前連結会計年度比83.8%減)となりました。

期末配当金につきましては、利益配分に関する基本方針に基づき、1株につき4円とさせていただきます。これにより、年間配当金は中間配当金(1株につき4円)と合わせまして、1株につき8円となります。

さて、当社はこれまで、日本国内はもとよりアジア数カ国に展開する生産拠点において製品を製造し、世界中の患者様・医療従事者の皆様へ、安全・安心で高品質な医療機器を提供してまいりました。このたび、2014年6月2日にホームページ他で公表しました通り、新興国の更なる成長に伴い、引き続き増大する世界の医療機器の需要に応えるべく生産能力を増強するとともに、生産効率化によるコスト競争力を確保することで効率的な医療の提供へ一層貢献することを目指し、フィリピン共和国における新工場の建設及び国内主力工場である出雲工場の拡張に着手いたします。最適地生産に向けグループ生産拠点の特性を活かしつつ、持てる能力を最大限発揮するよう生産体制を整備し、グローバルな事業拡大を更に進めてまいります。

株主の皆様には、今後とも格別のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

■ 配当金の推移



》》 所在地別

日本

売上高 **410億49百万円**

(外部顧客への売上高 368億49百万円)



2013.3 2014.3

経腸栄養関連製品や医療用手袋の販売が引き続き伸長したほか、新たな機能を付加した血液透析装置の販売が増加しました。

セグメント利益 **9億39百万円**



2013.3 2014.3

積極的な設備投資にかかる減価償却費や円安による輸入金額の増加により利益が減少しました。

(注)セグメント利益は、経常利益ベースの数値であります。

東南アジア

売上高 **167億33百万円**

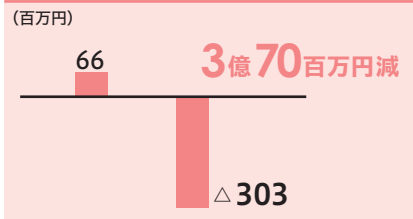
(外部顧客への売上高 82億76百万円)



2013.3 2014.3

北米向けの成分献血用回路や日本向けの血液バッグの販売が好調に推移しました。

セグメント利益 **△3億3百万円**



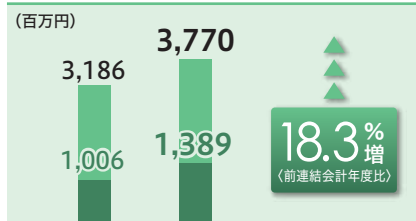
2013.3 2014.3

労務費の増加などにより損失となりました。

中国

売上高 **37億70百万円**

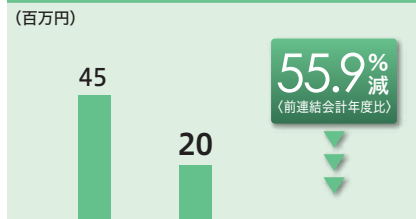
(外部顧客への売上高 13億89百万円)



2013.3 2014.3

欧米向け及び中国国内向けのAVF針(血液透析用針)の販売が伸長しました。

セグメント利益 **20百万円**



2013.3 2014.3

為替による円建ての売上金額の減少により利益が減少しました。

製品紹介

■ ジェイフィード経腸栄養システム

経管栄養療法(チューブを通して栄養を体内へ直接送る療法)を行う際に使用する医療機器です。栄養剤用バッグや栄養ボトルと栄養セットの接続部には、安全ロック機構を採用することで、離脱防止による安全対策を提案しています。



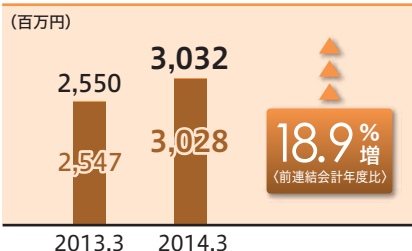
■ 血液透析装置「GC-110N」

血液透析を安全かつ効率的に行うための装置です。人工腎臓用血液回路内などの洗浄や血液の脱血/返血など、透析時の複雑な機械操作の大部分を自動化することで、医療の効率化と誤操作防止に貢献します。



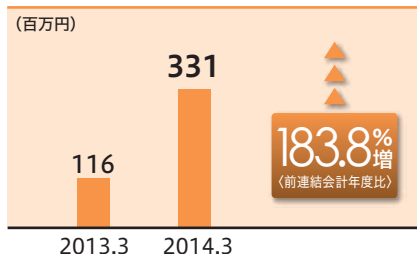
ドイツ

売上高 **30億32百万円**
(外部顧客への売上高 30億28百万円)



ドイツ国内向けのAVF針の販売が減少したものの、中近東向けの透析用チェアーの販売が増加しました。

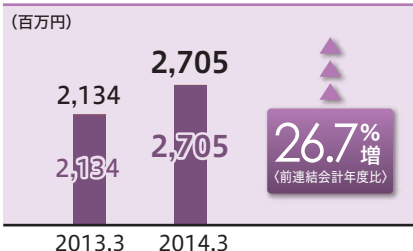
セグメント利益 **3億31百万円**



為替による円建ての仕入金額の減少により利益が増加しました。

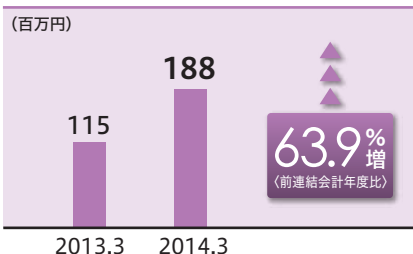
アメリカ

売上高 **27億5百万円**
(外部顧客への売上高 27億5百万円)



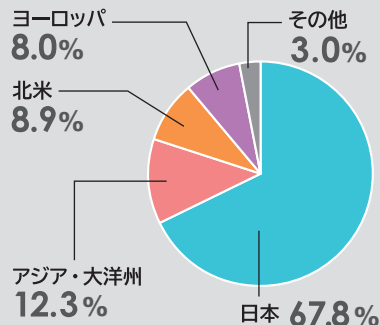
中南米向けの血液バッグの販売が伸長したほか、北米向けのAVF針の販売が堅調に推移しました。

セグメント利益 **1億88百万円**

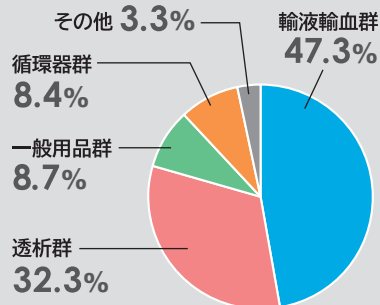


所有株式の配当金受取の計上により利益が増加しました。

》》》 地域別売上高構成比



》》》 システム別売上高構成比



輸液輸血群

輸液セット、経腸栄養システム製品、血液バッグ、成分献血用回路、シリンジ(注射筒)、注射針 他

透析群

血液透析装置、人工腎臓用血液回路、AVF針、プレフィルドシリンジ製剤、腹膜透析液 他

一般用品群

医療用手袋、不織布製品 他

循環器群

膜型人工肺、ペースメーカー、人工心臓装置、人工心臓回路、血管造影用・治療用カテーテル 他

■ 血液バッグ

血液の採血、保存、輸血に用いられるバッグです。



■ AVF針(血液透析用針)

血液透析を行う際に、シャント(動脈と静脈を接合した部位)から血液を体外へ取り出すための針です。

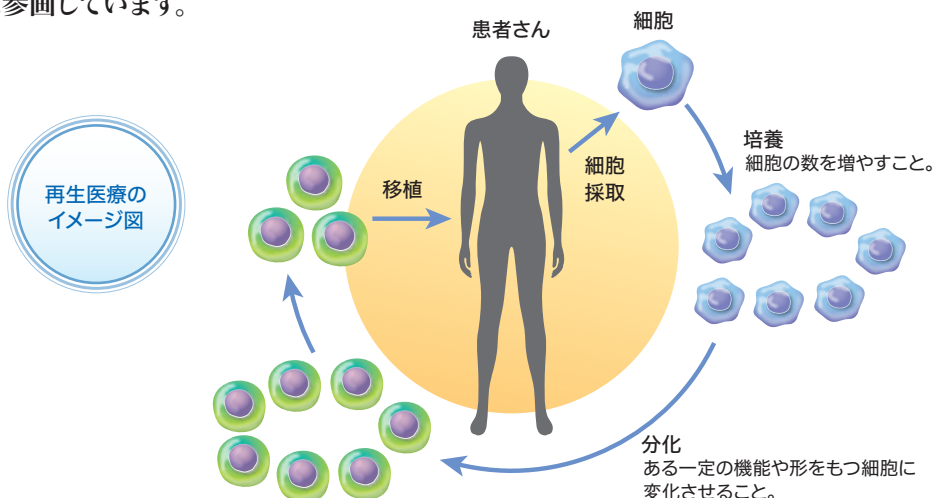


JMSは再生医療の実現化に貢献しています。

近年、世界各地で再生医療分野の研究が行われ人々の関心も高まっています。
当社は長年にわたって重点事業の一つとして再生医療の事業展開を図り、
産学官のプロジェクトにも積極的に参画しています。

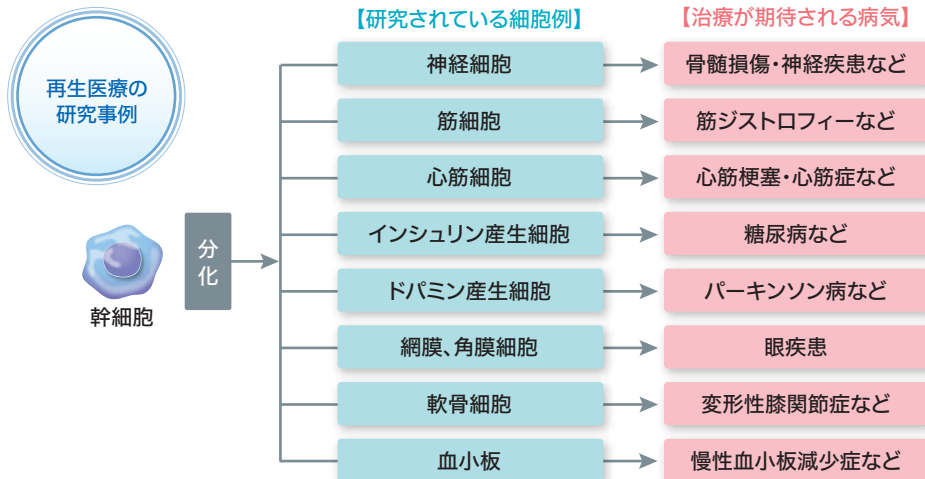
再生医療とは

再生医療とは、機能不全や機能障害になった組織・臓器などを再生させるため、ヒトから採取した細胞を培養・分化させ、必要な細胞や組織を人工的に作り出して患者さんの体に移植して治療する医療をいいます。再生医療が実用化されるにはまだ数年、数十年の歳月を要しますが、臨床応用をめざした各種の研究が世界各地で進められています。



再生医療の可能性

元来、生物の細胞や組織には病気やケガから再生する能力が備わっています。しかし、手術・投薬など従来の方法では治療困難な疾患も少なくありません。再生医療はそうした疾患の根本治療に途を拓くものであり、将来的には糖尿病などの慢性疾患や高齢に伴う疾患などの治療が可能になり、医療費の抑制にも貢献できると期待されています。

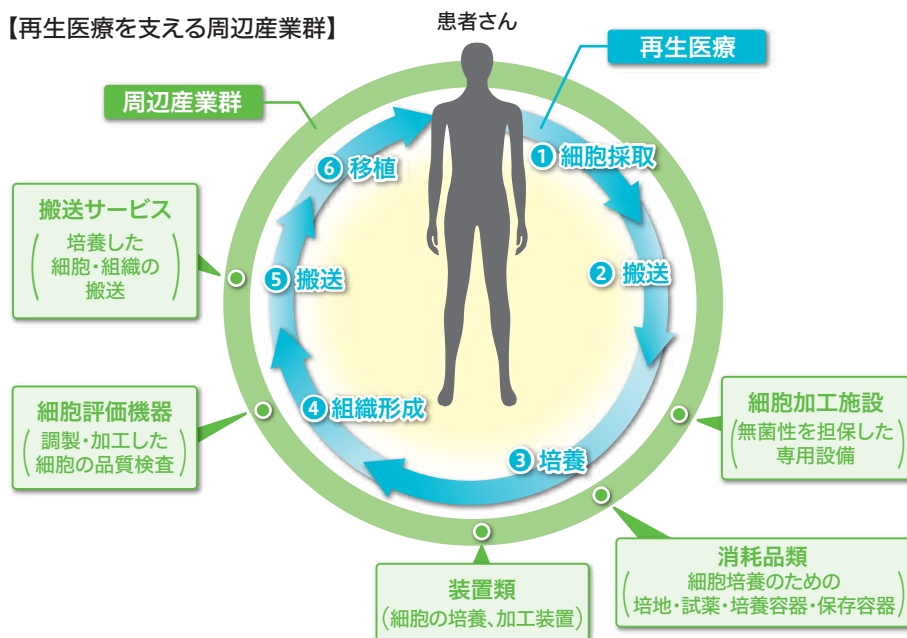


再生医療の実用化・産業化が進展しています。

■ 多様化する周辺産業群

再生医療の研究成果を臨床に活かすには、再生医療の各工程に必要となる資機材や各種サービスを提供する周辺産業の発展が不可欠です。すでに再生医療の実用化・産業化をめざした各種の研究や、細胞を培養するための自動培養装置、試薬、細胞加工装置といった周辺産業群が形成されつつあり、関連するさまざまな業種からの参入も相次いでいます。

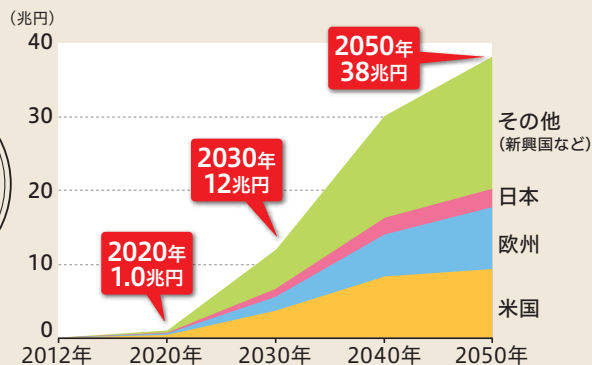
【再生医療を支える周辺産業群】



■ 巨大産業化する再生医療プロジェクト

自家細胞による再生医療に加え、多能性幹細胞(ES細胞、iPS細胞など)を用いた再生医療の普及によって、将来的に関連する市場の拡大が期待されています。世界の再生医療の将来市場規模予測を見ると2020年に1兆円、2030年に12兆円、2050年には38兆円が見込まれており、周辺産業を巻き込みながら再生医療が巨大産業化していく構図が読み取れます。

再生医療の
将来市場規模予測
(世界)



連携事業を通じて再生医療の進展に貢献しています。

JMSが担う再生医療への取り組み

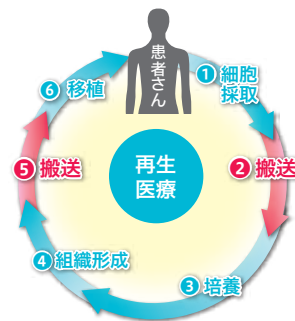
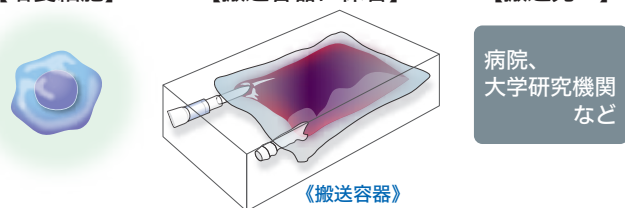
当社は長年、次世代の製品開発をめざして“再生医療”を重点事業の一つとして取り組んでいます。例えば2008年、再生医療及び医薬品・医療機器の開発・実用化をめざす内閣府の「先端医療開発特区」（通称、スーパー特区）のプロジェクトに参画。当社の「研究用 血清採取用バッグ」（承認後：血液成分分離バッグ「セルエイド」）を関係する研究機関に提供してきました。

事例 1 京都大学などとの連携事業で細胞の新型搬送容器を開発

再生医療に用いられる幹細胞や細胞加工品は“生きている”細胞です。従って細胞を搬送する際には、培養した細胞自体が呼吸でき、生きている状態を維持したまま搬送できる容器が不可欠となります。

当社は、京都大学や再生医療に関する要素技術や搬送技術、細胞製造技術などを有する企業とともに、幹細胞搬送に特化した搬送容器の試作品を開発しました。今後は、開発した基本技術をもとに早期製品化をめざします。

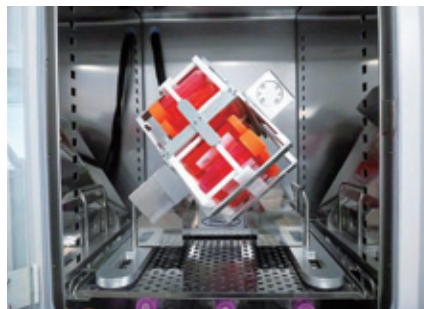
【培養細胞】 → 【搬送容器に保管】 → 【搬送先へ】



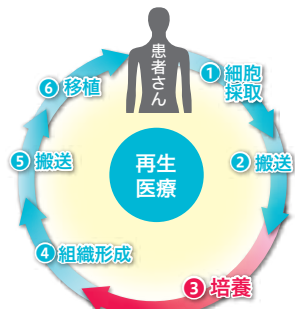
事例 2 広島大学発ベンチャー企業などとの連携事業で幹細胞の大量培養容器を開発

当社は、広島大学発のバイオベンチャー企業である(株)スペース・バイオ・ラボラトリーズ、(株)北川鉄工所、(株)ツールセル及び広島県立総合技術研究所との共同研究で、幹細胞を大量培養する培養容器を開発しました。

同培養容器は、(株)スペース・バイオ・ラボラトリーズが開発した微小重力環境細胞培養装置に搭載することで、従来の培養容器と比べ、省スペースで大量の細胞を培養することを可能とするものです。これにより、細胞を培養する工程で、空間の有効活用やコスト低減が期待されます。



微小重力環境細胞培養装置に培養容器を搭載した様子



各種デバイスの開発に取り組んでいます。

事例 3 血液成分分離バッグ「セルエイド チューブタイプ」を開発

血液成分分離バッグ「セルエイド」及び「セルエイド チューブタイプ」は、血液から血清を閉鎖系で簡便に調製できるデバイスです。血清は、細胞の栄養源となることが知られており、再生医療の研究者が、「セルエイド」で調製した血清を用いて研究を行っています。このたび、従来の「セルエイド」に加え、より少量の血液から血清が調製できる「セルエイド チューブタイプ」を開発、今期より販売を開始します。当デバイスの発売により、少量の血清調製が容易になることから、より基礎的な再生医療研究の発展にも寄与できるものと考えております。

当社はこれからも医療に大きな影響をもたらす再生医療の将来を見据え、その発展に貢献すべく、研究・開発を進めてまいります。

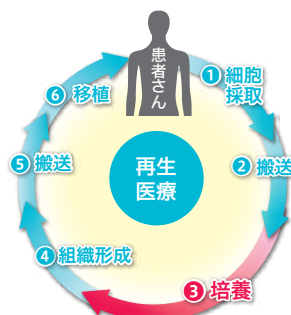


(上)バッグタイプ[容量/200ml]

(下)チューブタイプ[容量/20ml]

特性

- 完全閉鎖系
- シンプル操作
- 血液凝固促進ピーズ

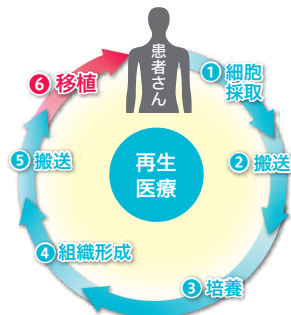
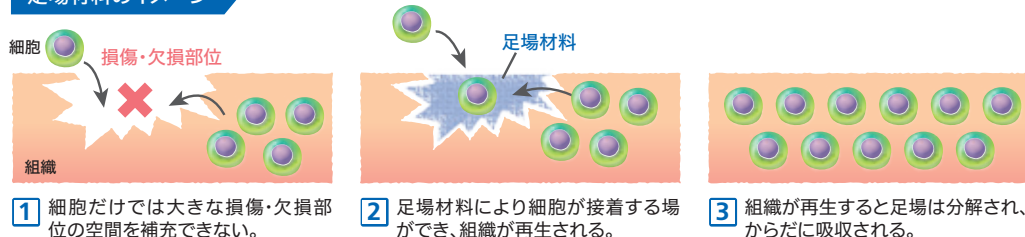


事例 4 再生医療用足場材料の研究開発

足場材料とは、体の損傷・欠損部位に細胞が効率よく接着・増殖するための足場となるもので、現在研究が進められている肝臓や腎臓といった臓器再生などの分野において必要とされています。

再生医療用の足場材料に求められる特性のひとつに、体内に移植した後、一定期間でからだに安全に吸収されることがあげられます。当社はこれまでに培った生体吸収性材料の技術を応用し、足場材料の実用化に向けて研究開発に取り組んでいます。

足場材料のイメージ



グローバルな視点で次世代を担う先進的なマーケットを創造

国内外の企業と連携し、新たな市場を開拓していきます。

旭化成メディカル㈱と 血液透析ろ過療法の分野で業務提携へ

日本の透析医療は世界水準の治療成績を実現していますが、近年、更なる患者様のQOL向上をめざしたHDF(血液透析ろ過)療法が注目されています。HDF療法とは血液透析療法の一つで、HD(血液透析)とHF(血液ろ過)の双方の長所を組み合わせたもの。小分子量から大分子量までの有害物質を効率よく除去することができます。2014年4月、当社と旭化成メディカル㈱は、このHDF療法分野での業務提携について基本合意しました。

当社は血液透析・腹膜透析の両製品群を揃え、日本で初めて多くの手技を自動化した血液透析装置を開発するなど、より安全で効率的な透析医療に貢献しています。一方、旭化成メディカル㈱は中空糸型透析膜などの技術を活かしたデバイスの提供を通じて、透析事業を中心とした血液浄化事業を展開しています。

今後、両社はそれぞれの強みを持ち寄ってHDF療法の普及・発展に貢献し、Qsコントロール機能*を搭載した新型血液透析装置の販売や製品強化を図るなど、両社の技術基盤を活かした事業を推進していきます。

*Qsコントロール機能：HDF療法を行う際、通常の血液透析に比べ大量の補液と除水を行うため、治療中に急激な圧力上昇が発生し血液ろ過フィルターの目詰まりが起こることがあります。Qsコントロール機能は、血液ろ過フィルターにかかる圧力を安定させ、補充液の量を自動コントロールして急激な圧力上昇を防ぎ、より安全にHDF療法を行うための機能です。当社が日本で初めて血液透析装置に搭載しました。

旭化成メディカル株式会社の概要

設立	1974年7月24日
所在地	東京都千代田区神田神保町
資本金	30億円(旭化成株式会社100%出資)
事業内容	血液透析事業、アフケリシス事業、輸血関連事業、製薬プロセス事業

華仁薬業股份有限公司とライセンス契約を締結

2013年12月、当社は中国の華仁(HUAREN)薬業股份有限公司と腹膜透析療法に用いる医療機器及び医薬品に関するライセンス契約を締結しました。華仁薬業は、中国国内で注射剤、造影剤をはじめ腹膜透析液などの製造・販売を行っている医薬品関連企業です。

当社が独自に開発した腹膜透析システムの製造・販売のノウハウと華仁薬業の有する製造・販売力を活かすことで、中国国内における両社の腹膜透析事業の一層の発展と患者さんのQOL向上に貢献できるものと期待しています。



調印式の様子

中国の透析市場

現在、中国で透析療法(血液透析、腹膜透析など)を必要とする慢性腎不全の患者さんは、約200万人と推測され、実際に透析を受けている患者さんはその15%程度とされています。その内、腹膜透析を受けている患者さんの数は現在、約3万人と考えられており、今後、腹膜透析は年30%程度増加していくと予測されています。(自社推計)

華仁薬業股份有限公司の概要

設立	1998年5月20日
所在地	中国山東省青島市崂山区
資本金	67,252万元(約109億円) ※2014年5月時点の為替レートで計算
事業内容	大容量注射剤(抗がん剤薬を含む)の生産・販売、 灌流液の生産および輸出入業務、 新型医薬品包装材料の開発/生産・販売

JMSブランドの向上や地域の発展に貢献する事業を展開

企業価値向上に向けたさまざまな事業活動を行っています。

▶ 社長 奥窪が「広島県企業懇談会」で講演

2014年2月、東海大学校友会館(東京)において、「広島県企業懇談会」(主催:広島県企業立地推進協議会)が開催され、社長 奥窪が『人と医療のあいだに…～広島発の世界の医療機器～』をテーマに、当社の会社概要、世界に向けた事業展開などについて講演しました。

当懇談会は、広島県が首都圏の企業に向け、広島県をパートナーとして選択し、未来に向けた事業活動を展開してもらうよう開催されたものです。首都圏と広島県のビジネス交流の拡大により地域経済が更に活性化するよう、地元企業として協力しました。また、広島県や教育機関との協働により開発された当社製品を紹介し、今後も産学官の連携により優れた医療機器を開発し医療現場に提供することで、引き続き社会に貢献していきたいと、講演を締めくくりました。



懇談会の様子

▶ 千代田工場 電子線滅菌棟が竣工、稼働開始

2014年3月、千代田工場敷地内に電子線滅菌棟が完成し、4月より稼働開始しました。これにより生産の更なる効率化及び短納期体制が実現。これまで以上に安全・安心かつ高品質な製品をタイムリーにお客様にお届けしてまいります。



電子線滅菌棟外観

▶ 全国で個人投資家向け会社説明会を開催

当年度は、広島、米子、熊本、札幌、浜松、金沢など国内各地で個人投資家向け会社説明会を開催しました。

投資家の皆様と質疑応答を含めた活発な交流を行いました。今後も積極的に会社説明会を開催し、投資家の皆様とのコミュニケーションを更に深めてまいります。



SMBC日興証券 札幌支店にて

■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前連結 会計年度 2013年3月31日現在	当連結 会計年度 2014年3月31日現在
《資産の部》		
流動資産	31,044	30,766
現金及び預金	4,153	1,997
受取手形及び売掛金	15,026	16,211
たな卸資産	10,759	11,606
その他	1,104	950
固定資産	20,241	22,456
有形固定資産	16,029	18,156
無形固定資産	734	730
投資その他の資産	3,477	3,569
資産合計	51,286	53,222

科 目	前連結 会計年度 2013年3月31日現在	当連結 会計年度 2014年3月31日現在
《負債の部》		
流動負債	17,886	18,342
固定負債	3,936	4,261
負債合計	21,823	22,603
《純資産の部》		
株主資本	30,189	30,003
その他の包括利益累計額	△798	523
少数株主持分	71	92
純資産合計①	29,462	30,619
負債純資産合計	51,286	53,222

■ 連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度(2013年4月1日～2014年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額				少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に 係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計		
当期首残高	7,411	10,362	12,687	△271	30,189	286	△1,084	—	△798	71	29,462
当期変動額											
剰余金の配当			△390		△390						△390
当期純利益			207		207						207
自己株式の取得				△3	△3						△3
自己株式の処分			△0	0	0						0
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						68	1,254	△0	1,321	20	1,342
当期変動額合計	—	—	△182	△2	△185	68	1,254	△0	1,321	20	1,156
当期末残高	7,411	10,362	12,504	△274	30,003	354	169	△0	523	92	30,619

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当連結 会計年度 2013年4月1日～ 2014年3月31日
売上高 ②	49,068	53,860
売上原価	35,630	40,237
売上総利益	13,438	13,622
販売費及び一般管理費	11,844	12,721
営業利益 ③	1,594	900
営業外収益	462	488
営業外費用	177	201
経常利益	1,879	1,187
特別利益	4	57
特別損失	54	263
税金等調整前当期純利益	1,829	981
法人税等	548	764
少数株主損益調整前当期純利益	1,281	217
少数株主利益	3	9
当期純利益 ④	1,277	207

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前連結 会計年度 2012年4月1日～ 2013年3月31日	当連結 会計年度 2013年4月1日～ 2014年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー ⑤	2,545	1,206
投資活動によるキャッシュ・フロー ⑥ △	3,340	4,751
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,262	1,219
現金及び現金同等物に係る換算差額	215	169
現金及び現金同等物の増減額(減少：△)	683	2,156
現金及び現金同等物の期首残高	3,468	4,152
現金及び現金同等物の期末残高	4,152	1,995

POINT 解説

- ① 純 資 産 (前連結会計年度に比べ11億56百万円増加)
・為替換算調整勘定の変動によるものです。
- ② 売 上 高 (前連結会計年度に比べ47億91百万円増加)
・10期連続増収。地域別では日本及び東南アジアでの販売、システム別では輸液輸血群及び透析群の販売が増加しました。
- ③ 営業利益 (前連結会計年度に比べ6億93百万円減少)
・増産対応のための自動化設備の増設等に伴う償却負担に加え、運送費や支払手数料等の販売費が増加しました。
- ④ 当期純利益 (前連結会計年度に比べ10億69百万円減少)
・税効果会計による繰延税金資産の取崩しにより税金費用が増加しました。
- ⑤ 営業活動によるキャッシュ・フロー
(前連結会計年度に比べ13億39百万円減少)
・売上債権の増加によるものです。
- ⑥ 投資活動によるキャッシュ・フロー
(前連結会計年度に比べ14億11百万円増加)
・有形固定資産の取得にかかる支出の増加によるものです。

(注) 金額につきましては、百万円未満を切り捨てて記載しております。

■当社の概要

設 立	1965年(昭和40年)6月12日
資 本 金	7,411,014,445円
上場金融商品 取 引 所	東京証券取引所市場第一部 (証券コード:7702)
主要な事業内容	医療機器、医薬品の製造・販売 及び輸出並びに輸入
従 業 員 数	1,576人 (グループ総数 7,144人)

■役員

代表取締役社長	奥村 隆宏	監査役	池内 和朗
専務取締役	窪上 宏	執行役員	村藤 雅之
取締役	国富 純	執行役員	藤井 彰博
取締役	泉 和雄	執行役員	土井 博義
取締役	森川 重美	執行役員	中野 義実
取締役	栗根 康浩	執行役員	岩田 良夫
取締役	佐藤 雅文	執行役員	近藤 正樹
取締役	桂 龍司	執行役員	笠岡 正明
取締役	井口 明彦	執行役員	石井 正吾
監査役(常勤)	兼口 昇万	執行役員	
監査役	林 原 康三	執行役員	
監査役	早稲田 幸雄	執行役員	

※井口明彦氏は、社外取締役であります。

※林原康三氏、早稲田幸雄氏、池村和朗氏は、社外監査役であります。

株式概要

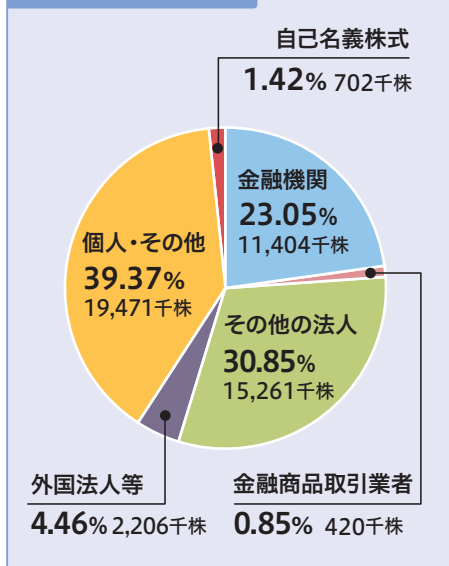
(2014年3月31日現在)

- 発行可能株式総数…100,000,000株
- 発行済株式総数……49,466,932株
(自己株式 702,455株を含む)
- 株主数 …………… 5,968名

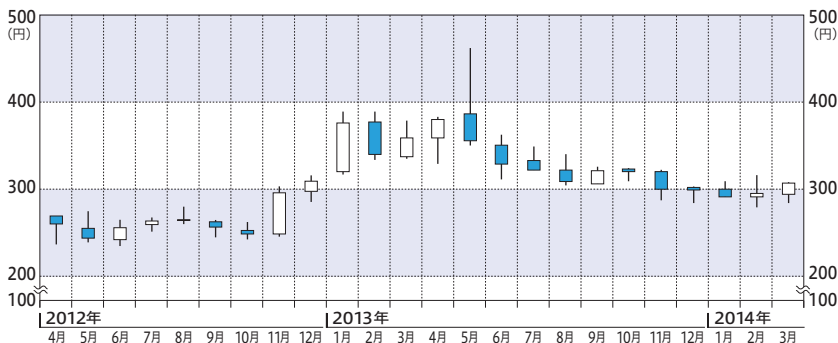
■大株主の状況(上位10名) (注)持株比率は、自己株式(702,455株)を控除して計算しております。

【株主名】	【持株数(千株)】	【持株比率(%)】
株式会社カネカ	4,947	10.14
一般財団法人土谷記念医学振興基金	3,800	7.79
土谷佐枝子	2,015	4.13
社会福祉法人千寿会	2,000	4.10
株式会社広島銀行	1,790	3.67
第一生命保険株式会社	1,722	3.53
大下産業株式会社	1,142	2.34
JMS共栄会	897	1.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	812	1.66
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	779	1.59

所有者別分布状況



■株価推移



グローバル展開を推進するために、生産拠点・販売拠点を各地域に設置し、事業活動を行っています。

海外ネットワーク

子会社

- ① 株式会社 韓国メディカル・サプライ
医療機器の製造・販売
- ② ジェイ・エム・エス・シンガポールPTE. LTD.
医療機器・医薬品の製造・販売
<http://www.jmss.com.sg/>
- ③ 大連ジェイ・エム・エス医療器具 有限公司
医療機器の製造・販売
<http://www.jmsdl.com/>
- ④ ジェイ・エム・エス・ノース・アメリカ・コーポレーション
医療機器の販売
<http://www.jmsna.net/>
- ⑤ バイオニック・メディツインテックGmbH
医療機器・医薬品の販売
<http://www.bionic-jms.com/>
- ⑥ PT. ジェイ・エム・エス・バタム
医療機器の製造



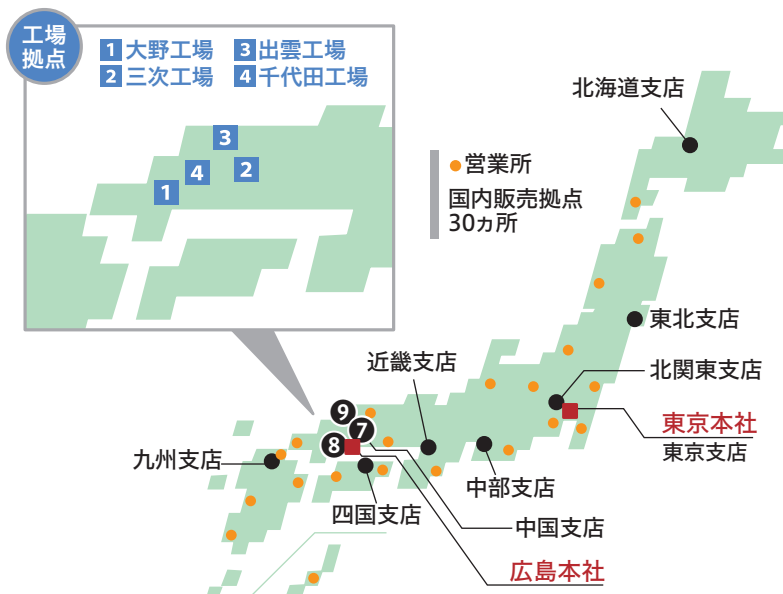
国内ネットワーク

子会社

- ⑦ ジェイ・エム・エス・サービス 株式会社
医療機器の修理等
- ⑧ 株式会社 大野
業務請負業

関連会社

- ⑨ 株式会社 ジェイ・オー・ファーマ
医薬品の製造・販売
<http://www.jo-pharma.co.jp/>



株主メモ 証券コード: 7702

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年
基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当 3月31日
中間配当 9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。

定時株主総会 毎年6月

株主名簿管理人
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社
大阪証券代行部
〒541-8502
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号
Tel.0120-094-777(通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告の方法 電子公告とする。
(<http://www.jms.cc/ir/denshi.html>)
ただし、事故その他やむを得ない事由によって
電子公告による公告をすることができない
場合は、日本経済新聞に掲載して行う。

ご注意

- 1.株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



JMS WEBサイトのご案内

当社の経営方針から主な製品、研究開発、IR、腹膜透析等の医療情報まで、多彩な情報を掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

▶▶▶ <http://www.jms.cc/> 株式会社JMS 検索



株式会社 JMS

広島本社 〒730-8652 広島市中区加古町12番17号
TEL 082-243-5844 FAX 082-243-5997

東京本社 〒140-0013 東京都品川区南大井一丁目13番5号 新南大井ビル
TEL 03-6404-0600 FAX 03-6404-0610

ホームページ <http://www.jms.cc/>

【表紙デザイン】

テーマ「心の中に咲く花。」



両手を広げて花を囲む人をモチーフに構成。大きな花は健康的な生活を送ることにより、明るく前向きに生きている人々の心をイメージ。また、医療を通じて人々の幸せを追求する姿勢も表現しています。

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを採用しています。